

IUHW

The gazette of International University of Health and Welfare



平成14年
12月 3日 発行

特集

第7回大学祭

風花祭

君、風花のように翔べ



発行：
学校法人国際医療福祉大学
大田原市北金丸 2600-1

編集：
広報委員会
TEL 0287-24-3000
内線 8116

ホームページアドレス
<http://www.iuhw.ac.jp/>
E-mail: media@iuhw.ac.jp



▲フィリピンの民族衣装を着てカレーを販売する団体を発見、本学の大学祭は大変国際色豊かです



▲ラグビー部は、おそろいのユニホームで、フラントフルトを販売



▲体育館脇では、乗馬体験のコーナーがあり、たくさんの人で賑わっていました



▲豪華商品は誰の手に、理学療法学科長丸山仁司先生を迎えて大抽選会

教室内での催し



▲茶道部によるお点前の披露



▲各学科で様々な授業体験ができます



▲コーラス部による歌の披露



▲お琴の演奏も楽しめます



▲ハンドベル部による演奏の披露



▲カフェテリアでは吹奏楽部が見事な演奏を披露していました



▲写真部では個性溢れる写真の展示が行われていました



▲LOVE PEERによる今年で2回目の性に関する展示、相談会



▲F棟1階ではリハビリテーションセンターの患者様の作品展示がありました



▲バザーには大勢のお客様が訪れていました

特集 第7回 風花祭

～ 僕らが起こす最大瞬間風速 ～
(2～5ページ)

実行委員長から

「第七回 風花祭を終えて」



風花祭実行委員長
岩上さやか さん

「One for all All for one」
僕らが起こす最大瞬間風速が今年の風花祭のテーマでした。一般学生からの応募の中から決めたテーマですが、何を行うにもお互い全力で支えあう事が大切という意味にとらえ、委員一同協力して準備を進めてきました。
当日は突然の寒さにもかかわらず大変多くの方にご来場いただき、特に芸能部は予想以上の賑わいでした。風花祭開催にあたりご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

参加学生の声

ひまわり会は失語症の方の交流会で私達は、普段交流会の準備や当日のお手伝いをしています。風花祭では、ひまわり会の会員の方が作った作品の展示を行ったり、会員の方から集めた物をバザーに出してこれからの活動資金にしたりしています。また、染物体験などを行っています。



那須ひまわり会

ボランティアにはもともと興味があり、風花祭を患者様と一緒に楽しむことが出来ればと思いボランティアで参加しています。学生二人ペアで患者様一人とゆっくり大学祭を楽しむことが出来ます。これからステージの方に行ってみ学してきます。



ボランティアに参加した学生

ステージ&屋外模擬店



▲オープニングセレモニーは毎年恒例のダンス部によるダンスでスタート

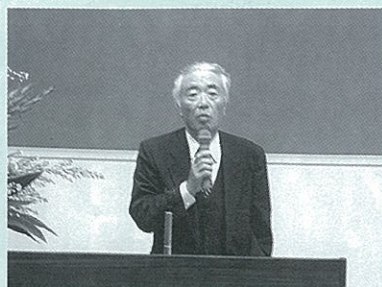


▲手話研究会メビウスによる手話劇「大きなかぶ」が行われました



▲交響楽部が宣伝のために野外で演奏を披露していました

教育後援会での講演要旨 | 国際医療福祉大学学長 谷 修一



医療問題を考える視点には、二つの側面があると考えています。一つは、医療保険による給付の範囲や国民の負担割合、医療保険の保険者間の財政調整など医療保険制と医療保険制の二つは、医療をする不信があると思います。連日報道される医療事故、あるいは患者が日常の医療で経験する医療者に対する不満等々に影響されています。医療に関して、患者の立場から勉強し、よりよい医療を目指す運動も盛んになってきました。しかし一方、医療では、医療を提供する側と受け手である患者との間には、その持つている知識において大きな差があり、患者がいくら努力しても、その格差は埋まらない場合があります。これを情報の非対称性と言いますが、学校教育にも当てはまる言ひです。

度に関するものです。もう一つは、医療の現場において、効率的で質の高い医療を提供するためのシステムに関する議論です。この両者は密接に関連がある事柄ではあります。今回私が主としてお話ししたいのは、後者を中心にして、特に医師を初めとする医療者と患者との関係についてです。

従つて、患者の立場に立つて患者の権利や利益を擁護することは、医療者に強く要請されることであり、医療者の専門職としての倫理観が求められる意味もここにあります。患者も、医療者に対して一方的に要求するだけではなく、自分の病状や病気について十分理解し、自分の考えをきちんと伝える努力が必要です。医療は患者と医療者



なる大学の雰囲気（風花祭）を学生と一緒ににコミュニケーションをとりながら、少しでも楽しみ、満喫して頂きたいという思いから計画したものです。風花祭の二日間に八十二名の入所児：者の方々と一七五名の学生が参加して下さいました。皆、それぞれの思いや関心を抱き、時間を提供して参加して下さいたのだと思います。当日、皆一人一人が自主性を持ち、何か自分の出来る事をやろうと、戸惑いながらも懸命に取り組んでいる光景を何回も目にする事が出来ました。協力して下さい、本当に有難う御座いました。また、当日だけではなく準備段階から、施設職員の方々はお忙しい勤務中であるにも関わらず、その都度、親切に手を止めて協力して下さいました。そして、鈴木五郎先生と二見さんには常に見守って頂く事で私達の精神的な支えとなりました。

最後に私事になりますが、今回のかざはな実行委員のメンバーだったからこそ、ここまで互いに支え合い、協力し、頑張れたのだと思います。メンバーに対しては本当に有難うという思いで一杯です。



(深見純)

「みんなで協力して出来た
かざはな満喫ツアー」



かざは、これらの多くの支えと協力があつたからこそ、当日無事に六回のツアーをどうにか無事に成功させる事が出来たのだと思います。そして、入所児・者、職員、学生という事に関係なく、皆が同じ立場からお互いを尊重し、対等に参加出来るツアーになったと思いました。

また、入所児・者の方々が当日皆と出会う事が出来、ツアーを楽しんで下さったようです。そして、皆の書いて下さったカードをととても喜んで下さっている

と職員の方から教えて頂きました。直接お伝えする事が出来ず残念なのですが、この場をお借りしてお伝えしたいと思っています。本当に有難う御座いました。また今回の事を通して、皆が入所児・者の方と同じ自由な時間を共に過ごす事で、少しでも楽しみを共有（共感）し、何かを学ぶ事が出来、今後の何かの活動につながっていかばと思っています。

當日、皆

青年海外協力隊帰国報告会

「開発途上国における保健医療活動」



▲報告をしている石井先生（PT）

の共催により行われ、
この会の認知度も徐々に上
がってきました。



▲報告をしている石井先生（PT）

十月二十日（日）、風花祭に合わせて「第四回青年海外協力隊帰国報告会」が開催されました。この会はより多くの人に青年海外協力隊の活動について、また発展途上国における医療協力について知ってもらうために国際医療福祉大学、栃木県海外協力隊O B会、国際協力事業団（JICA）

当日は国際交流委員会委員長の細井良三教授の開会挨拶、協力隊の活動紹介ビデオの上映の後、私は概説として「日本の医療協力の必要性」という題目で話をさせていただきました。続いてメキシコ派遣、看護婦隊員ＯＢの松本郁子さんとネパール派遣、助産婦隊員ＯＢの目黒真子さんから帰国報告があり、最後に国際部長の梅内拓生教授から総括で締めくくりました。



▲国際交流委員会委員長、細井良三先生
の開会挨拶

今回の報告会は大学関係者だけでなく、地元の方々も来られ、多岐に協力隊活動や日本の国際協力について考えていただけたこと、様々な視点で意見交換ができたことは大いに意義なことであると思います。

保護者の声



娘が保健学部の視機能療法学科に通っている、ダンス部に入っているものだから、

今日はこちらで公演を行うというこで見学をしに来ました。バザーなども出ているというこなので楽しみにしてやってきました。



線・情報放
科学科
に今年、
娘が入
学した
ので、今
回はじ
めての
大学祭



でバドミントン部に入り出店
しているからということであ
しみに来ました。



環境などが以前より充実したように思います。最後の大学祭になると思いますので楽しんでいます。帰りたいと考えております。



が、施設、三年ぶりに来てみたのです。

年四年生となり最後の大学祭ということで、

姉か今

地域の出店者の声



▲ひまわり共同作業所の皆さんによる
杵とウスを使ったお餅つき

今年で三年連続して参加させてもらい、お餅をついています。杵とウスでつくお餅は機械で作ったものとはまったく味が違います。毎年こちらで一日に四つ、合せて（三升）前後のお餅をつき、二つ単位でバックづめし、あんど黄な粉をまぶして皆さんにお安く販売させてもらっています。おいしいのでぜひ食べてみてください。



▲エルム共同作業所の皆さん、
好評のお餅とおこわは、朝の6時
から皆さんで作ったとのことですよ。

大学祭には毎年参加させてもらって、子ども達も保護者会のほうも大変喜んでいきます。私どものお店ではおでん、おこわ、新鮮な果物などを販売させてもらっているのですが、毎年好評ですので、ぜひ一度召し上がってみたいと思います。



▲盛大に鏡割りが行われました

去る十一月二十二日に「国際医療福祉大学附属熱海病院 開院祝賀会」が熱海後楽園ホテルで行われました。祝賀会では、本学の高木理事長、谷学長、神崎院長が迎え、熱海市長、市川市長、厚生労働省東北北陸厚生局の芝池局長のほか、附属熱海病院と関係の深い約三〇〇名のお客様が来賓され、国際医療福祉



▲安全祈願祭

「気になる子どもたちの理解とその支援」セミナー



言語聴覚センター主催の秋季セミナーが十月二十六日に行われました。セミナーは今年で三回目を迎え、二一八名の方が参加されました。

講演は、下泉秀夫先生に「発達障害を持つ子どもたちの理解と支援」、田中裕美子先生に「言語発達障害児の理解と支援」、畦上恭彦先生に「乳幼児期のコミュニケーション発達を促す関わりについて」、小林順子先生に「学童期から思春期における気

（大学クリニック 金子 忍）

P.T全国研修会にて 「実りの秋」



秋が深まり、初冬を迎え、ますます朝晩の寒さが厳しくなっております。本学科では、去る十月に、山形県山形市にある山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）にて、第三十七回全国研修会に参加致しました。十月十一日（金）から二日間に行なわれ、『理学療法と隣接学際領域との連携』をテーマに、各領域の専門職との連携について特別講演、シンポジウム、セミナーがそれぞれ四つの会場で行われました。シンポジウムでは

理学療法学と医学、工学、体育学、社会学、心理学、教育学、保健学など各分野の実践および概要を中心に進められました。理学療法学科の卒業生も多数参加しており、臨床への熱心さが受けられました。医療福祉チャンネルの取材の一環で、卒業生インタビューを実施していましたが、どの卒業生も堂々とした態度で臨んでおり、社会人としての成長は目を見張るばかりでありました。また、恒例の教員と卒業生との懇親会では、学科長よりも成長した姿（？）が見受けられました。で、理学療法学科一同安心（？）しております。どの卒業生もそれぞれの臨床で、あるべき姿を掲げているようで、さらに目を細めている教員一同でありました。

（理学療法学科 金子純一朗）



作業療法士協会第三十五回全国研修会開催



去る十一月二日、三日に仙台市東北福祉大学ホールで第三十五回日本作業療法士協会全国研修会が行われました。テーマは「生活者としての痴呆性高齢者を理解するために」とタイムリーな話題で五百人弱の会員や関連職種が集まり、会場の都合から約一五〇人程の申し込みを断らなければならぬほどでした。「生活者」という点に焦点をあてつつも、疾病として痴呆症

状を大脳生理学の立場からと精神病理学からとらえた講演を基礎にして、在宅生活を支える地域づくりについてのジョイント・セッションと、施設における実践報告を中心としたシンポジウムというプログラムでした。病院、老人保健施設、グループホーム、デイケア、在宅において痴呆高齢者とその家族を支える作業療法が行えるために、多面的な理解を基礎にした上での関わり方を学ぶことができた研修会でした。少数職種である作業療法士が他職との連携を行い、有効な働きを痴呆高齢者に実践していくための指針と勇気を持てたという反響が多く寄せられました。

（作業療法学科 菅原洋子）

平成十四年看護学科 公開学習会を開催



看護学科の公開学習会は、地域の人々と共に学ぶことを目的に、学科開設以来行われていた行事です。平成十四年度は中西睦子新学科長の講演

を計画しました。中西学科長は、アメリカのミネソタ大学大学院看護学専攻を修了し、前任の神戸市看護大学では学長を勤めました。今回は新学科長の紹介も兼ね、学科長の専門領域とする看護管理の中から、「変革理論―現状は変えられる―」というテーマで行いました。当日は、県内の医療施設および附属熱海病院・山王病院などの国際医療福祉大学関連機関を含め十九施設一〇一名の参加者がありました。講演内容は、戦略的な変革に向けての理論と実例を挙げての説明が大変わかりやすく、看護管理の経験者からの質問や体験談も述べられ、参加者からは大変有意義な会であったという感想を頂きました。本大学と地域交流という面からも効果的な学習会でした。

（公開学習会担当 江幡芳枝）

第二十回私立医科大学 理学療法学会開催



去る十月十一日、理学療法学科の藤沢先生を学会長として、表記の学会が行われました。「急性期理学療法」をテーマに多様な成果発表があり、先端・高度医療の内容を含めた活発な質疑応答が行われました。主催である私立医科大学理学療法研究会は、私立医科大学に勤務するリハビリテーション専門職相互の学術交流と、その成果発表の場として、二十年の歴史を刻んでおります。決して大規模でない、どこかアットホームな雰囲気、この学会を心待ちにしている会員の多さを生み出している様に思えました。

今回は、本学学長である谷先生から、「二十一世紀の医療行政の動向」をテーマとした特別講演を頂き、さらに重みのある学会となりました。

最後に本学理学療法学科の学生が多数参加し、また裏方として良く働いてくれたことも報告しておかねばなりません。

（理学療法学科 中口和彦）



▲谷修一学長の特別講演

医療経営管理学科

「三年次病院実習無事終了」

今年も八・九月の二カ月間で、三年生の病院実習が無事終了しました。全国の代表的な病院約五十施設にて、数名ずつに分かれて四週間の実習を受けました。事務管理部門での体験学習と、専門職種の業務見学が主な内容ですが、本学科の場合は国家資格取得のための必須カリキュラムがないために、病院ごとの特徴を活かした実に多彩な実習プログラムとなっています。カルテ出し作業ばかりさせられる、人間関係が大変、院長に怒られたなどなど、夏中いろいろな悲鳴を漏れ聞いた後急に静かになって、秋に学校に戻ってきた三年生を見ていると、皆それなりに悟るところがあったようです。

(加藤尚子)

医療福祉学科

「第二回医療福祉学科会

(同窓会) 行われる」

風花祭の第一日目十月十九日(土曜日)、乃木温泉ホテルにて「第二回医療福祉学科会」が行われました。一期生・二期生が約六十名、教職員が八名参加しました。当日は、総会で役員(会長・副会長・代議員)を選出し、その後分科会に分かれ、同じ領域(高齢者・障害者・児童・社会福祉・MSW・PSW)でのしごの内容、職場の課題、悩みなどをグループディスカッションし、参加者全員で共有しました。その後の懇親会では、ビンゴゲームで盛り上がり、楽しい夜を過ごしました。それぞれの職場で、先輩達はがんばっています!

(本多 勇)

大学院だより

「十一月四日にM一報告会開催」

世の中はハッピー・マンデーだというその日、わが大学院ではまる一日、M一生の研究経過報告会が行われました。四つのキャンパスを遠隔授業システムでつなぎ、

二系統の会場に分かれ、朝は九時から夕方七時近くまで。昼休みをのぞいては休憩時間もなくというハードスケジュールでした。それでも最後までかなり大勢の人がとどまり、限られた時間枠を精一杯使って、熱心な討論をくりひろげました。

(鎌倉矩子)

基礎医学研究センター

「ストップ・ザ・けもの道」

三年前の夏、私の研究室がD棟五階から新設されたL棟四階へ移りました。南側に面した新研究室からは黒羽・湯津山方向が一望できます。朝もやがすすんだ山々や家・樹木の輪郭が明瞭になつてゆく風景は皆様にも見せたいほど素晴らしいものです。

さてL棟新築とともに整備された教員職員駐車場の一角に、けもの道ならぬ自転車道があるのに気づいたのは移住してまもなくでした。国道四六一から大学の裏門に通じる道を来た自転車通学の学生諸氏が裏門の手前で左折し、廃業したホテルの前の小道から駐車場を囲む生垣を突き破って通行し始めたからでした。裏門を頂点とする三角形の底辺に当たるその道は(三角形の二辺の和は他の一辺より長いという法則に従い)数秒を争う朝はなかなか貴重なようで、職員が何回か杭を打ち綱を張って通行を阻止しても二日ともちませんでした。我が大学の学生は精神的に逞しいのです。

半年後、それとは別に裏門脇から駐車場へ進入するバイク道が出来ました。利用者が増し今では芝生が剥げ落ち幅も随分広くなりました。そのぬけ道にもついに杭が打たれ綱が張られました。こちらの方は二週間以上たつた今もまだもつて

いるのが不思議でした。がしつかり別のバイク道が出来ていました。バイク通学者も負けていなかったのです。学生と大学のイタチごっこ?も研究室から見ているのには楽しい風景ですが場内で自動車の接触未遂が多発しているなど聞くのと、通常の道を走行して事故のないよう通学してもらいたいと思っっています。

(野首和人)

健康管理センター

「かぜ症候群の予防に

お茶・紅茶でうがいを」

「かぜ症候群」とは、咽頭痛・鼻汁・咳などを主症状とする上気道(鼻・咽頭・気管支)の急性炎症のことです。原因の八十〜九十%はウイルスです。インフルエンザウイルスはその一つです。

日本茶や紅茶の中に含まれているカテキン(渋みの成分)が、これらのウイルスと結合して感染力を失わせる働きを持っていることを、昭和大学細菌学の島村忠勝教授が基礎実験及びマウス、ヒトを対象とした試験で証明しております。島村教授によると、電顕的にカテキンはウイルス周囲の突起に結合してウイルス同士を凝集させ、凝集を起させないごく低い濃度でもウイルスの突起を覆って不明瞭にするとのこと。紅茶や日本茶を飲むだけでは予防効果は弱く、飲む濃度の四〜五倍に薄めた体温と同じ位の温度のものでウガイするのが最も効果的ということ。外出から帰った時などは非やってみて下さい。

(谷 禮夫)

言語聴覚センター

「秋季セミナー開催」

去る十月二十六日(土)、当センター主催の秋季セミナーが開催されました。講師には、下泉秀夫先生、田中裕美子先生、畔上恭彦先生、小林順子先生をお迎えし、医師、言語聴覚士、臨床心理士、それぞれの立場から「気になる子どもたちの

図書委員会

「図書館の改革へ向けて」

前の号でお知らせしたように、現在図書委員会は図書館の改革案の作成を行っています。すでに、基本方針の原案を各学科に提示しましたので、お目にとまっていることと思います。

図書委員会としては、蔵書がまだ不足しているにもかかわらず、その購入方法に無駄があるのではないかと、時期によっては行列ができるなどスペースが狭すぎるのではないかと、東京、熱海、福岡などキャンパスが増えてきているので、その図書室をどう運営していくか、最大の利用者である学生の意見を反映する方法がないのではないかなどを問題点と認識しています。

(開原成允)

臨床教育小委員会

「実習生が主体的に学習できる

学習環境充実」

この度国際医療福祉病院 実習生用施設が次ぎの通り整備され後期実習から早速快適な環境の基で各学科実習に励んでおります。

念願の「多目的ホール」(「学生談話室」)「実習生用ロッカー室」等が整備され大変恵まれた環境で実習が可能になりました。「多目的ホール」の利用は、実習中のミーティング、レポート作成、実習教育用図書閲覧、勉強会、VTR鑑賞、自己学習等様々な目的で利用可能です。図書閲覧は病院職員と共用であり、今後蔵書の増加と充実も期待できます。またVTR三台の設置、またパ

「求人状況中間報告」		
今年度の本学学生を対象とした求人の十月末現在の受理状況は以下の通りです。		
不況であるにもかかわらず、本学への求人は増えていきます。「行政・一般事務」には他学科の学生が応募できるものを多数含んでいます。また福祉関係の求人は例年これから年度末にかけて増えるのでご注意ください。求人票は就職情報コーナー・各学科のファイ		
L及び学内LANで検索できます。この情報を利用して、得て内定を獲		
(丸山仁司)		
求人数		
職 種	本年度	昨年度
看護職	16,040	14,269
理学療法士	2,141	1,899
作業療法士	1,752	1,418
言語聴覚士	348	199
診療放射線技師	281	306
医療経営管理関係	175	184
福祉職	1,631	1,653
行政・一般事務	22,368	19,928
合 計	29,440	29,285

(単位:人)

編集後記

11月に入り急に寒い日が続く風邪をひいている人が多くなりました。この時期は実習や就職試験や国試の勉強や、4年生にとってはストレスの多い時期でもあります。学生であつたら「風邪ひいてしまって・・・」といて許されることも、職業人となれば「健康管理も仕事のうち」と叱責されることもあり、実習中には社会人としての厳しさの一端にもふれることになるようです。今年も残すところわずかとなりましたが、ストレスに負けず遅く乗り切っていけるために、気分転換などにIUHWが少しでもお役に立てれば幸いです。(菅原洋子)

IUHWクイズ ～第34弾～ 当選者発表

前回のクイズはいかがだったでしょうか。前回、正解者がいなかったの今回では当選者2名とさせていただきます。

そして、運良く当選された方達は、看護学科2年生の矢口愛佳さん、言語聴覚障害学科3年生の野口郁恵さんです。おめでとうございます。学生証持参の上、L棟学生課までお越し下さい。

前回解答

1. E
2. D

部会・委員会報告

国際部・国際交流委員会

一、「海外保健福祉事情」科目、「海外研修・活動」の「報告会」が十月八日(火)に開催されました。学長はじめ多くの先生方および学生の皆さんの参加を得て、吉川幸次郎君(PT二年)および若上智絵さん(RT二年)の司会のもとに、中国、ベトナム、米国、オーストラリアそれぞれの研修地に習得した貴重な学習内容が参加した学生の皆さんおよび引率の先生方から報告されました。

二、「第四回青年海外協力隊医療系帰国隊員報告会」が十月二十日に栃木県青年海外協力隊OB会・JICA東京国際センターとIUHWの共催で、地域住民の方々の参加も得て、本学にて開催されました。

石井博之先生(PT)の「日本の医療協力者の必要性について」の報告の他二名の帰国隊員からの有意義な報告がなされました。

部活・サークル紹介 第五弾

今回は、空手部の部長・武正さん、風花祭に参加中の茶道部の皆さんにインタビューをしてみましたので紹介します。

茶道部



▲坂田裕子さん



▲茶道部部长
山口裕子さん

学部・学科・名前を教えてもらえますか。
保健学部 作業療法学科三年の山口裕子です。
保健学部 作業療法学科三年の坂田裕子です。
みなさん普段どこで練習をされているのですか。
(山口) 週に一度、植竹先生に来ていただいております。稽古をするほかに、週に一回部員だけで集まって練習やお稽古を行っています。
茶道のお点前は部員全員が出来るのですか。



▲風花祭でのお点前の披露、とても素晴らしいかったです

(山口) 一年生のなかには練習中で、まだ披露をするまで上達していない人もいますが、部員のほとんどはお点前が出来ます。二年生になると全員、お点前の披露が出来るのですか。
(山口) 一年生でも大学祭などでお客様を前にしてお点前の披露を行う人もいます。お稽古のなかに盆略と平点前というものがあり一年生では、盆略を練習して、二年生になると平点前ができるようになります。
みなさんいつごろから茶道を始めたのですか。
(山口) 私は、大学生になってからです。
(坂田) 私は高校生の頃から茶道を習っていたのですが、茶道がおもしろいと思ったので大学に入っても続けようと思ったからです。
茶道のどんな所が面白いと思いますか。
(坂田) 奥が深いということですね。お点前だけでなく、もてなす心やお席を作ることなどに対して、工夫をし創造性が養われるというところです。

空手部



▲空手部主将
武正智宏さん

最初に学科、学年、名前を教えてください。
看護学科三年の武正智宏です。
現在、空手部は何名で活動しているのですか。
現在は、一年生から四年生まで二十名で活動を行っています。
普段はいつ、どこで練習をしているのですか。
夏休み中は、週三日間が全体練習、残りの週三日間はそれぞれ自主練習をするという形をとっています。
今までにどのような大会に参加してきましたか。
日本空手協会が主催する大会や、関東学生リーグなどの大会に参加しています。
空手の試合のルールを教えてください。
基本的には試合は、寸止めルールのポイント制になっています。ルールが似ている物としては、剣道があり、打撃が入るとポイントとなります。
大会での成績を教えてください。
団体戦の方では、日本空手協会の県大会で、今年優勝をしました。その他では関東学生リーグ、関東の学生が集まるという大会で、そちらの三部リーグで優勝、個人戦でも型と組み手で優勝しています。
みなさん、空手はいつから始めたのですか。
私は、高校に入った時から始めました。部員の中には幼稚園から道場に通って習っている人もいますし、高校に入ってから、また大学に入ってから始めた人も何人かいます。
空手の魅力はどのようなところですか。
練習はつらいのですが、練習した成果が試合などで出せた時や試合などで相手が何もない技が決まった時など、なんともいえないうれしい気持ちになれる所が空手の魅力だと思います。
最後に一言お願いします。
大学から空手を始める人もいますので、現在空手を習っている人もまったく経験がない人もぜひ空手部に入ってください。一緒に活動してください、宜しくお願いします。
(取材へのご協力ありがとうございました。)



▲今後の大会に向けて頑張ってください

I UHWクイズ — 第35弾 —

次の文章の () の中にぴったり合う動物を下から選んでください。5つの動物を辞書で引けばすぐ見つかりますよ。皆さん奮って応募してくださいね。

抽選で1名の方に旅行ギフト券をプレゼント！解答を記入の上事務局窓口外側のメールボックスに投函してください。なお、締め切りは12月21日です。

1. That guy drinks like a ().
2. When she saw the robber, she was as brave as a ().
3. The boy said, I'll be quiet as a ().
4. My best friend is as loyal as a ().
5. He eats like a ().
(dog, mouse, lion, fish, horse)

解答用紙

学籍番号	学年
名前	
解答	
1.	2.
3.	4.
5.	